

# 秋はお参りの季節

平成 20 年 9 月 13 日 (土) ~14 日 (日) 秋の永代経並びに天皇会  
平成 20 年 9 月 20 日 (土) ~26 日 (金) 秋の彼岸会

まず、平成二十年九月十三日(土)、十四日(日)に秋の永代経並びに天皇会が勤まります。昼座は午後二時から、夜座は午後七時半からです。布教使は下市町



釣鐘堂横 百日紅(サルズベリ)の花

暑かった夏もいつの間にか過ぎ去り、秋の気配が感じられるようになってきました。秋といえば、食欲の秋、読書の秋、スポーツの秋……。でも、光遍寺門信徒の皆様にとりましては、九月、十月と法要が続きますので、何よりも「お参りの秋」としていただきたいと思えます。

仏教強化月間 亡き人と共に

# 光遍寺新聞



第 12 号

発行所

〒638-0315  
奈良県吉野郡  
天川村沢原 141  
浄土真宗 本願寺派  
仏照山 光遍寺

電話番号  
0747-63-0638  
ホームページ  
<http://www.kouhenji.org>

今月の法語

かけがえのない  
自分の人生を  
そのまま受け取れない  
自分がある

(二階堂行邦)

## 永代経とは？

『永代経』とは、そのような名前のお経があるのではなく、『永代読経』の略で、「永代に渡ってお経が読まれる」という意味から、そう呼ばれているだけです。

また『永代経』には、「お寺が永代に存続し、み教えが大切に受け継がれるように」という願いが込められた意味もあります。

ですから、尊いお念仏のみ教えを伝えてくださった、ご先祖の遺徳を偲び、私自身が聞法に励んで、今度はその法灯を子孫に伝えて行ってこそ、その名の通り『永代経』と言い得るのです。



## 天皇会とは？

光遍寺とご縁の深い後醍醐天皇のご遺徳を偲び、私たちが仏縁にあわせていただく機会が天皇会です。毎年、仏教壮年会主催で行われ、天川村最後の盆踊りが行われることでも有名です。



後醍醐天皇

次に、平成二十年九月二十日(土)から二十一日(土)までの一週間、秋の彼岸会が勤まります。毎日午後七時半から『仏説阿彌陀経』、『讚仏偈』をお勤めし、その後法話があります。

## 彼岸会とは？

春分・秋分の日には、太陽が真西に沈みます。「仏説阿彌陀経」に(西方の十万億の仏土を過ぎたところに極楽浄土がある)と書かれています。真西に沈む太陽と自身を重ねて、ご先祖がおられ、私もいざ行かせていただく極楽浄土に思いをいたす機会が彼岸です。

他宗では、彼岸には先祖供養のためにお勤めをしますが、浄土真宗では、少し違います。彼岸は、先に亡くなられた方々を偲ぶことはもちろんですが、姿かたちは無くても仏様となって今も私と共に生きていることを自覚する大切な期間です。

## 彼岸の雑学

### 「ぼたもち」と「おはぎ」

お彼岸のお供え物と言えば、「ぼたもち」、「おはぎ」ですが、この二つはどう違うのでしょうか。

実は二つとも同じもので、ぼたもちは「牡丹餅」、おはぎは「萩の餅」であったといわれています。

今では一年中を通して売られているので、どちらの名前も混同して用いられるようになったようですが、本来は牡丹の季節、春のお彼岸に供えるのが「ぼたもち」で、萩の季節、秋のお彼岸に供えるのが「おはぎ」というわけです。



仏様の教えは「今」聞かないといけません。何かとお忙しいとは思いますが、お誘い合わせの上、是非お参りください。

前号(第 11 号)  
門信徒広場の答え

正解 ③

泥の中から、きれいな花を咲かせるから。

(解説)

泥というのは私たち人間界あるいは人間の心(煩惱)を例えたものです。蓮の花は、きれいな澄んだ水の中から咲くのではなく、汚れきった泥の上でこそ大きなきれいな花を咲かせます。同様に仏教は、聖者のためのみ教えではなく、日々煩惱の炎を燃やし苦悩し続けている私たちを目標としたみ教えです。そんな私たちが仏(花)になっていける道が仏教なのです。



「種は種ではない」と龍樹菩薩の教えにあります。種とは、芽となり花を咲かせ実を結ぶものです。もし芽にもならず花も咲かせず種が種であり続けたら、それは種と言えなくなります。種は種でなくなるからこそ、芽となるからこそ、種と言われます。

「死なない」ことが生きることではありません。「生れて死ぬ」ことが生きることです。別れにならない出会いもありません。別れなければならない間柄になることが出会いです。生と死は別物ではなく、会うは別れの始め。これは「本当のこと」であり、別に寂しく悲しい事と定まっているわけではないはず。むしろ、生と死が分けられない所にこそ只今の命の尊さがあり、別れから目を逸らさない所にこそ出会いの有難さがあるのでしょう。

しかし私達は、「生きているのに、なぜ死ななくてはならないのだろう...」「せつかく会えたのになぜ、別れていかなければならないのか...」と、苦しみ悲しまずにはおられません。だから、死を覆い隠し、別れを禁句にして当面の安心を守ろうとするのでしょうか。生死を分けずに命の尊厳を見抜く「真実の智慧」がなければ、本当のことを白日の下にさらすわけにはいかないでしょう。

念仏者は、愚かな凡夫の身のままで、死も別れも覆い隠す必要のない道を歩ませていただいています。これは実に大変な事態だと思うのです。本来、何かを覆い隠そうと計らわずにおれないのが私達です。その私の手がお留守になるほどの「仏さまの智慧」が、確かに本願の念仏には込められているのです。



阿弥ちゃん!!

すてきな首飾りね...

あら 阿弥ちゃん

これは「門徒式章」といって

仏様の前に出る時の正式なスタイルなのよ

何か違うような...

門徒式章をつけるの

しっかりね 仏様のお話を聞かなくては...と思えるの

おーっ どう? そんなバイトもしてるの?

二、三万円

門信徒広場

今回は天皇会にちなんで、光遍寺と後醍醐天皇をつなぐものから出題したいと思います。直接的な証拠はないのですが、代々言い伝えられてきたことが形として残っています。

光遍寺に後醍醐天皇が滞在し、光遍寺を勅願寺(天皇の発願によって創建された寺、あるいは創建の後に勅許を授かった寺、光遍寺は後者)とした史実を伝えるものとして、山門前にある一対の石灯籠があります(下写真)。

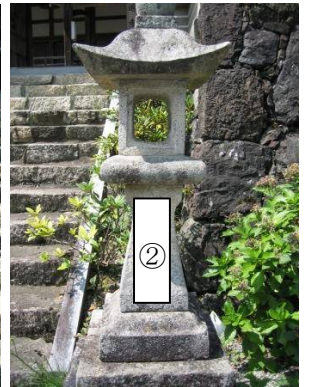
この石灯籠の側面と後面には、

文久元年  
酉八月??

側面

願主  
中越村  
寺井杵之丞

後面



と書かれています。文久元年とは西暦でいうと1861年、江戸末期で、まさにNHK大河ドラマ「篤姫」の時代です《徳川家茂(とくがわ いえもち)と和宮親子内親王(かずのみや ちかこないしんのう)の婚儀が行われたのが文久2年》。石灯籠には、江戸時代から後醍醐天皇とのつながりを表す言葉が刻まれているのです。

さて、ここで問題です。上の写真の①、②には何という文字が刻まれているでしょうか?左右に注意してお答えください。

- ① \_\_\_\_\_
- ② \_\_\_\_\_

光遍寺にお参りの際に、注意して見ていただければすぐに分かると思います。正解が分かった方、先着5名様に素敵な記念品をご用意しています。遠慮なさらずにお申し出下さい。